

1 本年度の重点教育目標

基礎・基本の徹底と自己調整力の育成

2 本年度の取組の重点

①学びの創造 ②徳性の涵養 ③心身の鍛練 ④信頼される学校

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価		
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価	主な意見（改善策など）
①学びの創造	教科等横断的なカリキュラムの編成・実施	b	学習内容の関連を網羅した全体計画の作成と実施が必要である。	A	A	学んだことがどう生かされ将来に役立つのか、学ぶ意欲につながると考えられる。
	総合的な学習によるキャリア教育（進路指導）の推進	a		A		
	授業力向上への取組と校内研修の充実	a		A		
②徳性の涵養	自主的な委員会活動、いじめ防止撲滅運動	a		A		
	携帯・スマホ・ゲーム機器の利用への組織的な指導，啓発	b	学校と保護者間で実態の周知、共有をする。フォーサイトの有効活用を図り、優先順位を付け、自己管理ができるよう粘り強い指導が必要である。	A	A	保護者の意識の向上を図るための取り組みも必要。きまりを作ってもそれを許してしまうこともあるので、親子で学ぶ機会があるとよい。
	ふれあい活動の充実	a		A		
③心身の鍛練	フォーサイトの活用による自己管理指導	a		A		
	S B・自転車乗車指導，通学路の点検，校内安全点検	a		A		
	危機管理への取組（災害発生時・生徒指導上等）	a		A		
④信頼される学校	学校だより・学級通信・学級懇談会等の情報発信	a		A		
	各種調査結果の説明と積極的な公表	a		A		
	P T A活動、C Sの充実改善	b	コロナ禍の中、生徒の活動を優先した結果、P T A活動やC Sの取組は進めづらい状況であった。 小さな集団での活動や、集まらない活動への切り替えも今後検討が必要。	A	A	地域や保護者としてサポートしていく。 防災学習など保護者への理解が進んでいないことをC S中心となって進めることも効果的と考える。
	子どもに向き合う時間を確保するための業務改善	b	校務支援システム他、有効と思われる資源を活用しながら、勤務時間の縮減に向けた取り組みを工夫していく。	A	A	行事内容の短縮等、学校の方針には理解をしている。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり，取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが，若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが，若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。